

平成21年度第2回山形県立博物館協議会 記録

日 時 平成22年2月12日(金)
13:30～15:30
場 所 山形県立博物館講堂

1 開 会

2 あいさつ

- (1) 山形県教育庁文化財保護推進課長
- (2) 山形県立博物館長

3 委員紹介

4 会長あいさつ

5 報 告

- (1) 平成21年度主要事業の進捗状況について
(事務局より説明)

〈質疑応答〉

○日野委員

「入館者状況」の項で今年度の2月分と3月分がマイナスになっているのは、どう
いうことなのか。

○事務局

2月分と3月分の比較がマイナスになっているのは、あくまでも統計処理上のため
ですので御了解願います。

- (2) 博物館の運営状況評価の試行について
(事務局より説明)

〈質疑応答〉

○丸山委員

「博物館自己点検システム」というのは、日本博物館協会のホームページにアクセ
スして実施するものなのか。

○事務局

「日本博物館協会 点検」で検索すると冒頭にでてくる。日博協の会員がアクセスし登録できるものと非会員がアクセスしその時だけの利用となるものがある。なお、比較評価のベースとなるデータは、平成 19 年度に日本博物館協会が実施した全国調査によるものであり、20 年度の登録館アクセス分を加えたものと聞いている。

○丸山委員

「総合博物館」の分類で、当館の評価が多くの項目で上回っているのは喜ばしいことだ。当館では、調査研究のための予算措置が行われていないということだが、状況はどうなのか。

○事務局

都道府県立の公立博物館についてみると、過半の館は調査研究のための予算措置がとられていない状況にある。

○野口委員

今年度は共催展示を開催するなど、いくつかの連携事業が実施されたが、調査研究の方で博学連携ということは考えているのか。

○事務局

来年度は、山形大学等との連携による事業も考えている。

○安達委員

「山寺展」の詳しいアンケート調査報告はたいへん参考になった。これからもこのような報告を出してもらいたい。

○事務局

今後は統一した調査フォーマットを作成した上で、全部の事業について評価アンケートを実施する予定である。「山寺展」のアンケート結果については、館ニュースに掲載し公開している。

6 協議事項

- (1) 平成 22 年度の運営方針・事業計画について
(事務局より説明)

〈質疑応答〉

○日野委員

来年度に実施する奈良国立博物館との共同企画展の会場はどこなのか、どれぐらいの規模の出品数となるのか。

○事務局

展示会場は本館第3展示室を予定している。具体的な出品数については、現段階では確定できないが、県内の主だった考古遺物も関係機関の協力を得て出展したいと考えている。

○日野委員

来年度は、当館が日本博物館協会の東北支部長館になるということだが、それに併せた事業などはあるのか。

○事務局

日博協東北支部と東北地区博物館協会の総会と研修会を開催する。参加者は東北各県からそれぞれ数名ずつ、地元県から **20~30** 名で、全部で **50~60** 名が見込まれる。県の博物館連絡協議会とも連携をとりながら計画を進めていきたい。

○日野委員

文化、展示事業などは行わないのか。

○丸山委員

開催にともなう県からの補助などはないのか。

○事務局

その他の事業や補助はありません。

○後藤委員

今は何事にもお金をかけられなくて、人々の心が内側に向いている時代になっている。その意味でも「山寺展」は成功を収めたと思う。来年度の事業には、様々の形で「山形らしさ」が現われており、大いに期待しエールを送りたい。

○安達委員

来年度の事業には意気込みが感じられる。ホームページの充実も図るということだが、モバイルによる今の接続は使い勝手が悪い。入館者用パンフレットに載っている **QR** コードが小さく何度も読み込みに失敗したし、情報画面も非常に見にくい。ぜひ改善を望みたい。

また、上山市では中学生の職場体験を受け入れる事業所が不況のために減ってきている。県立博物館など県の機関でも生徒を積極的に受け入れてもらいたい。

○事務局

ご指摘のモバイル対応の不備については、今後検討していきたい。現在はホームページをリニューアル中であり、情報の集約化を図っている。小学校 4 年生をターゲットにバーチャル・ミュージアムも作成し、館内見学の事前・事後学習に役立てることを考えている。また、「やまがたのミュージアム」のページも新設し、県内の博物館・美術館等ともリンクできるようになる。各館にはパスワードを付与して展示等の情報を各館で更新できるようにする。当館までの交通案内についても、ホームページ上で詳しい案内図を掲載する予定である。

なお、中学生の職場体験については、当館では山形市内の学校だけでなく生徒を受け入れている。

○安部委員

当館の交通案内は不十分だ。今日ここに来る時も公園内の一方通行を逆走してくる車があった。分りやすいものを作ってください。

○丸山委員

当館からの帰り道も含めた霞城公園全体の丁寧な案内が必要だ。

○大江委員

来年度の教育資料館開館 30 周年記念展は、教育資料館を会場とするのか。

○事務局

教育資料館は常設展示のスペースしかなく企画展示はできないため、本館を会場にして実施することになる。

○大江委員

本県は教育県といわれた歴史もあり、教育委員会や教育センターなどにも働きかけて、展示会を若い教員の研修の場として役立てるようにしてもらいたい。

各種のアンケート結果の報告があったが、それはどのように各事業に反映されるのか。また、情報のデジタル化について、電子媒体の耐用年数や保存について心配はないのか。

○事務局

アンケートに寄せられた意見等は、その都度反映するようにしている。情報のデジタル化と一元化に関しては、東京国立博物館に視察に行ったが、やはり混乱があるようだった。データの保存については、少なくとも 2 系統のバックアップが必要であるし、一定期間ごとに紙媒体に移すことも考えている。

○野口委員

「やまがたのミュージアム」のホームページには、各館の基本情報だけではなく、企画展の情報なども盛り込めるようにしたらどうか。資料整理の目途はどうなっているのか。資料整理が進めば、調査研究、展示、教育普及とよい循環をつくることができる。館内の子ども向け案内パンフレットや解説資料もあればよい。

○事務局

ホームページ上の展示会情報等については、ホームページを持っている館はリンクで見られるようにする。持っていない館については、できるだけ情報を盛り込めるように配慮したい。

資料整理に関しては、来年度も県の緊急雇用対策事業を活用しての整理作業が今年度並みに継続できる見込みである。

現在の解説シートは各部門で独自に作成しているが、来年度は統一したフォーマットで作り直すことを考えている。また、対象の年齢幅を広げることも考えられる。小学生向けには、ホームページ上のバーチャル・ミュージアムで館内を散歩できるようにする予定である。

○丸山委員

例えば、館ニュースに QR コードを入れるなど、紙媒体とデジタル媒体をつなぐ工夫がほしい。

館長は、先ほど入館者数 3 万人超を目指すといわれたが、意気込みのほどを聞かせてもらいたい。

○事務局

昨年度の入館者数は、久々に 2 万 6 千人を超えたが、今年度は新型インフルエンザの影響が大きかった。来年度は様々な目論見を徐々に具体化しながら、目標を達成していきたい。

○丸山委員

我々も目標達成のために側面から支援していきたい。

(2) その他

特になし

7 その他

特になし

8 閉 会